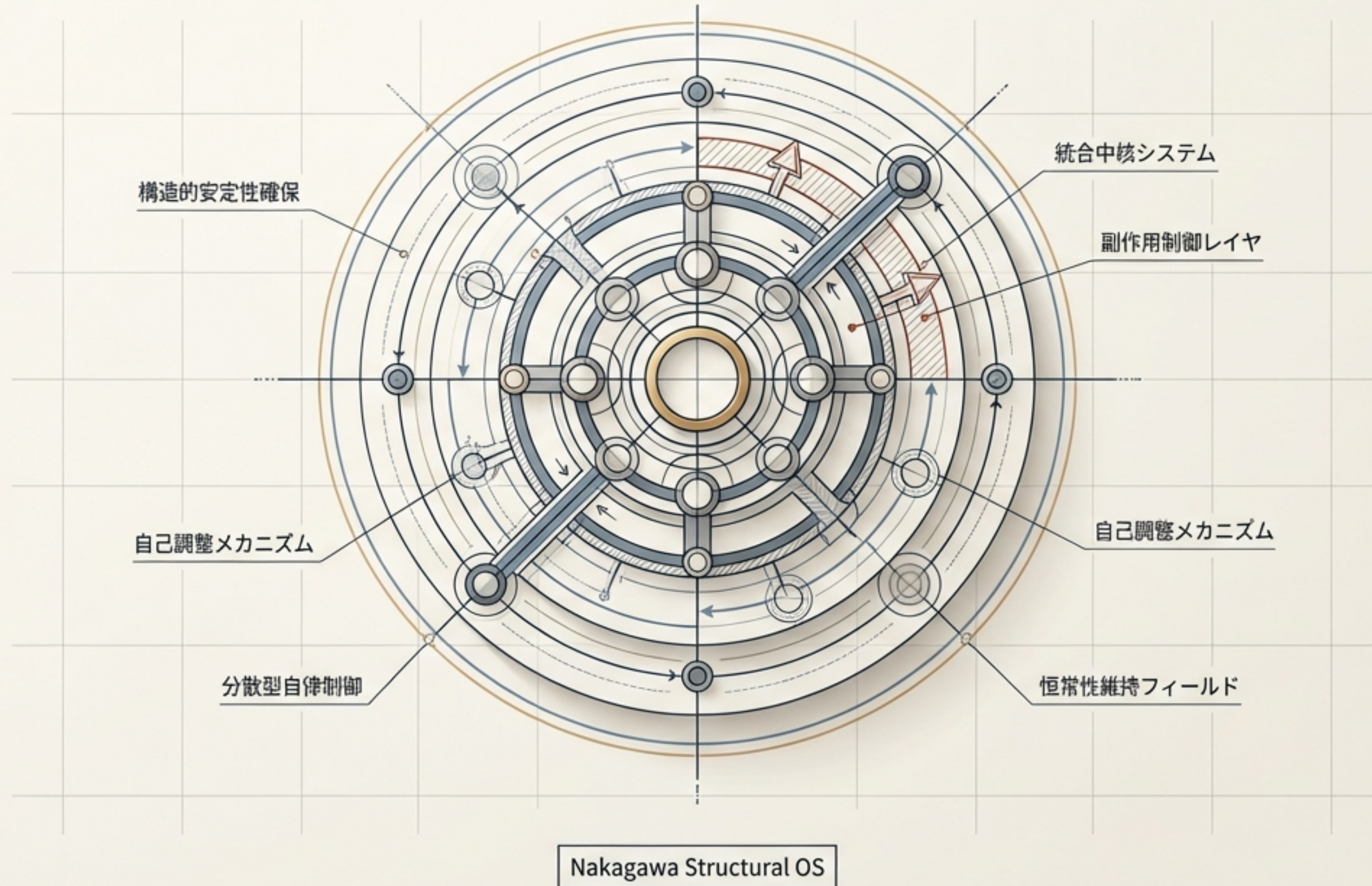


# 恒常性維持モデル

副作用制御レイヤの統合と自律分散OSの構造的恒常性

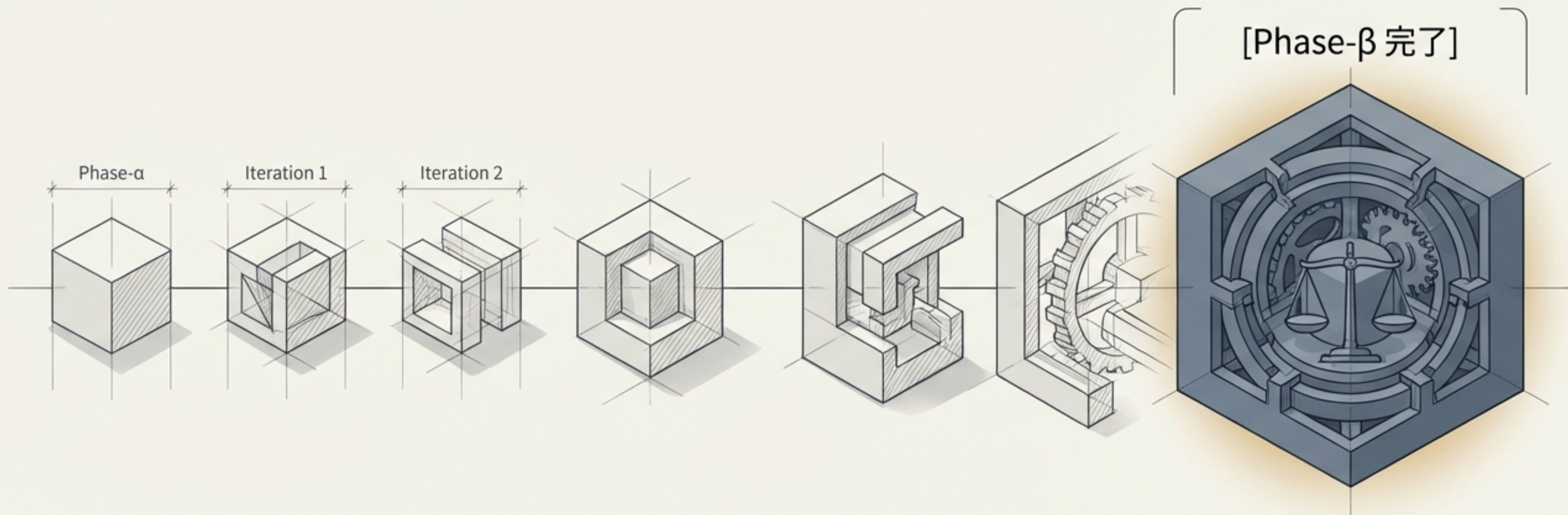


# 構造文明OS Phase- $\beta$ の最終到達点

## ・恒常性維持モデル（Homeostasis Model）とは何か？

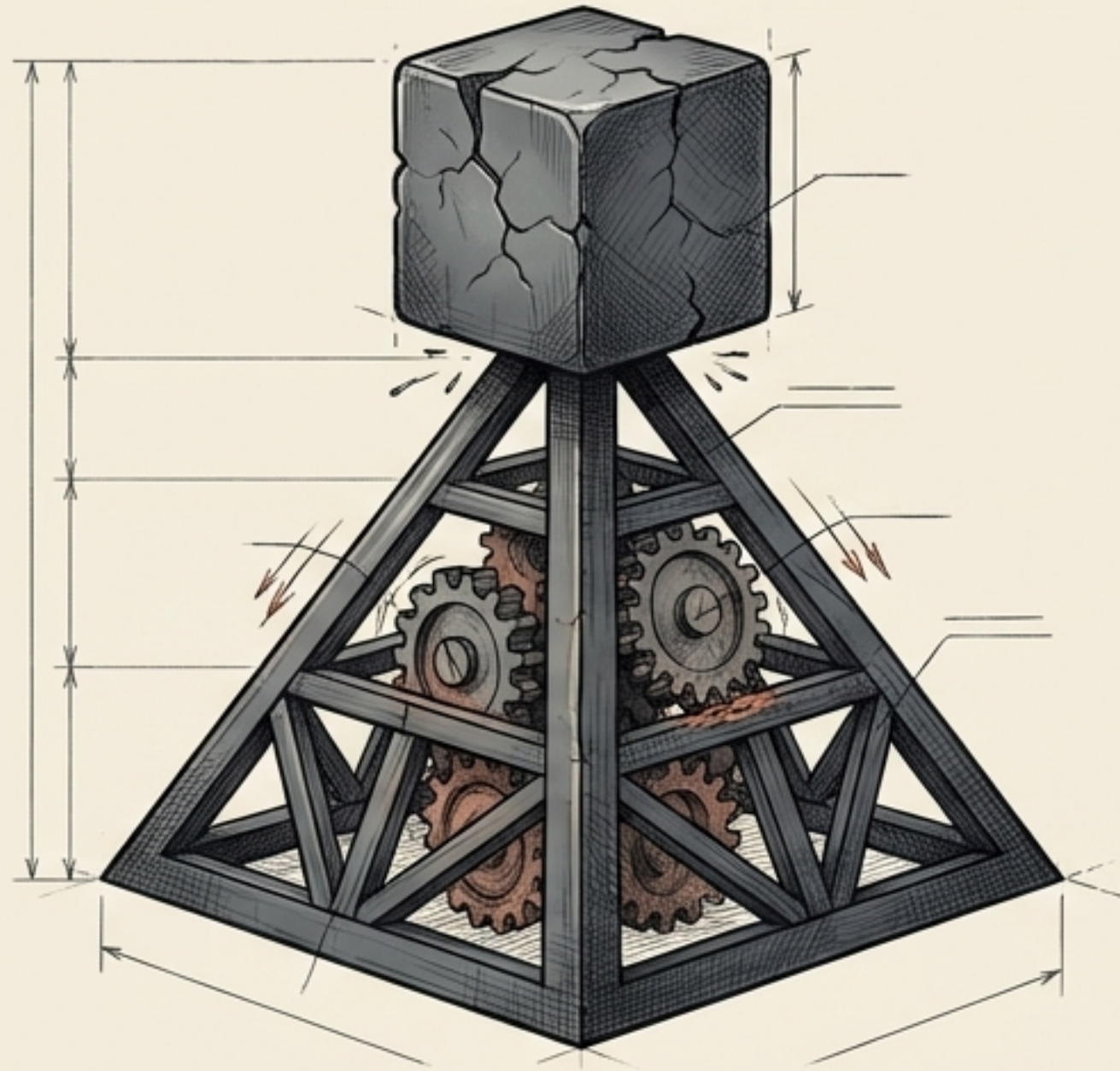
構造文明OS Phase- $\beta$  を締めくくる最終統合理論。

外部からの権力や管理に頼らず、OS内部の「構造そのもの」が自律的に安定性を保つ仕組み。



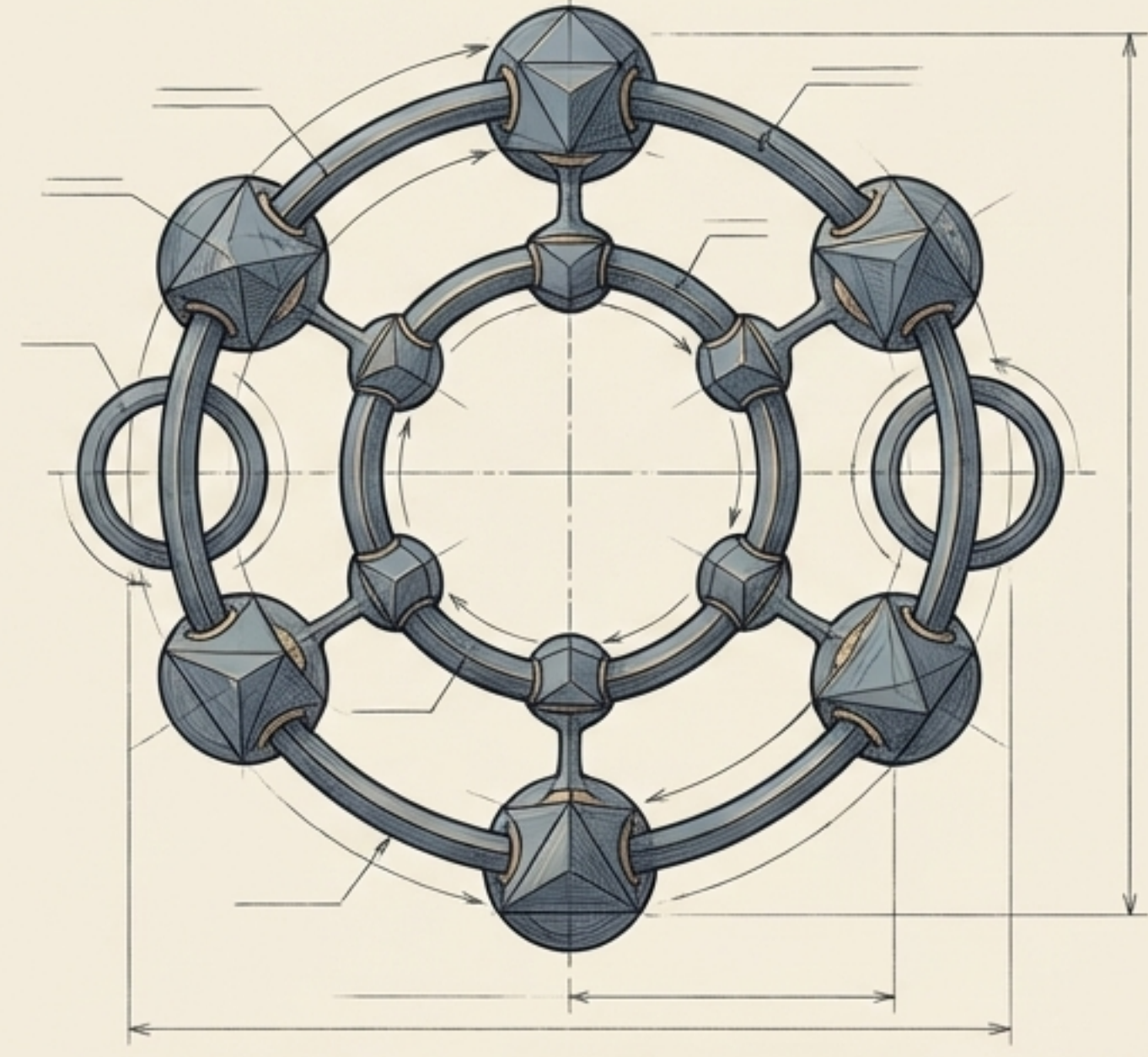
# 構造的自律性へのパラダイムシフト

Legacy OS (中央集権的構造) :



常に人間の管理、倫理的疲弊、権力の監視が必要。

Nakagawa OS (構造的自律性) :



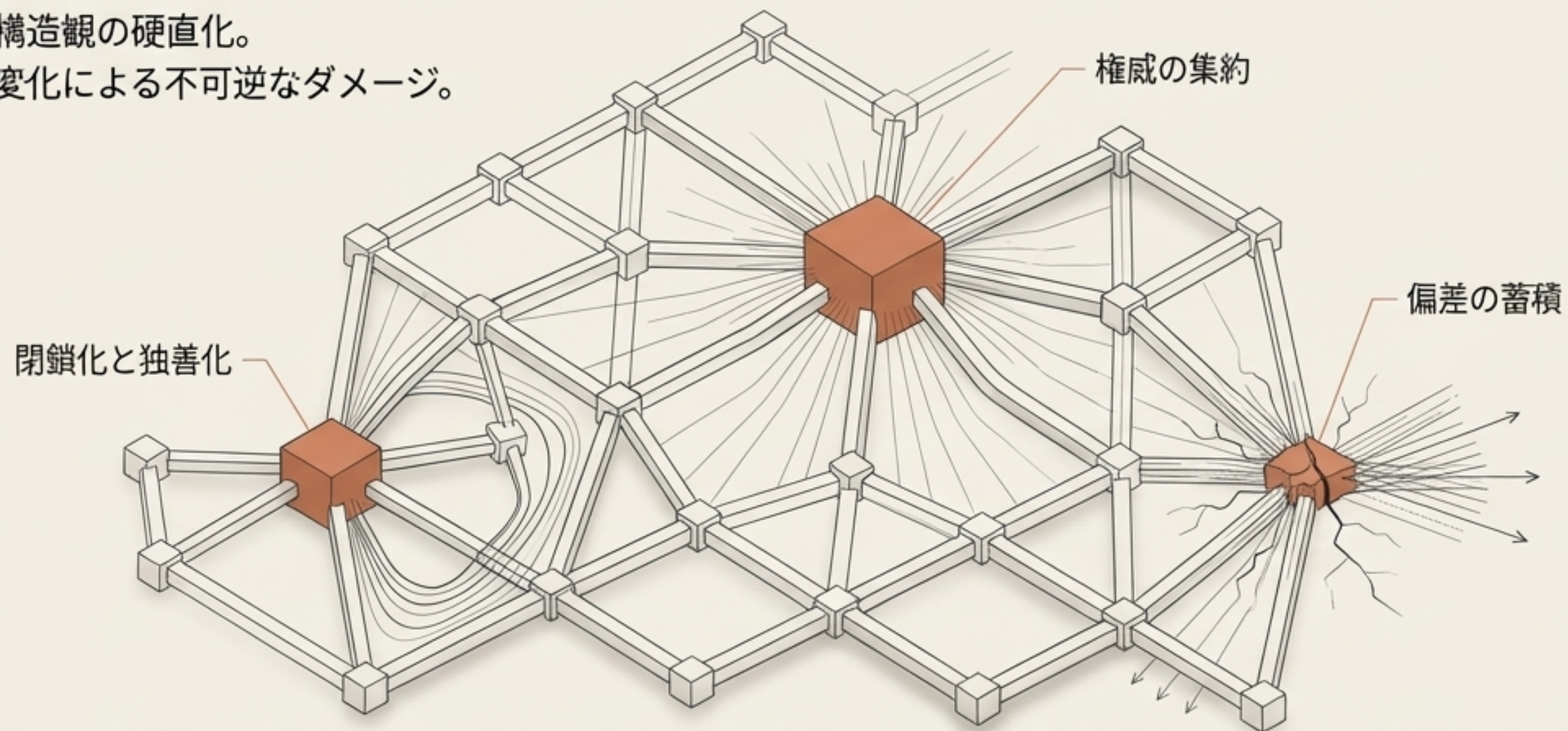
ゆらぎを前提とし、構造自体が動的に修正し続ける。

[構造的自律性: Structural Autonomy]

# 不可避な「構造的ゆらぎ」の発生

いかなるシステムも、運用により必然的な副作用（ゆらぎ）を生む。

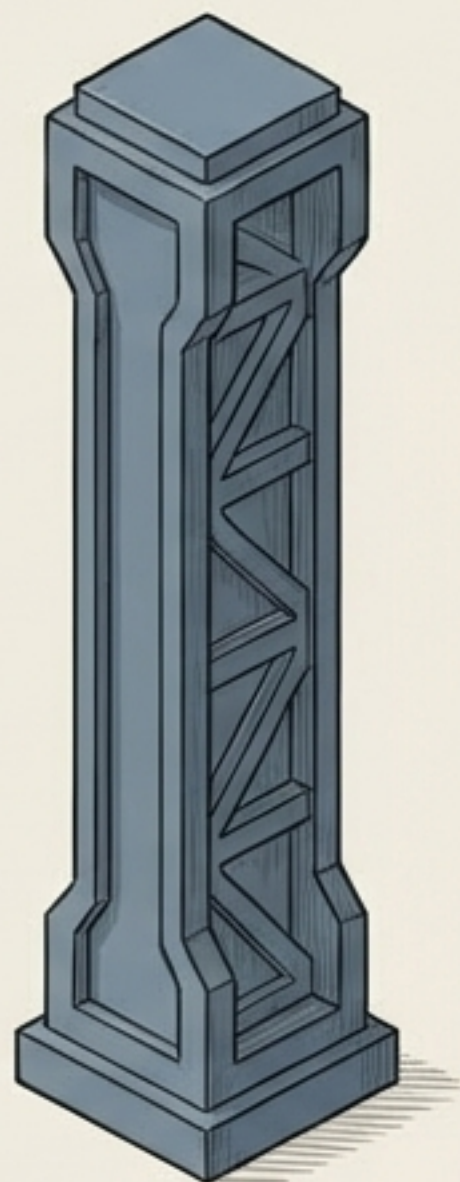
- 権威の集約: 特定の個人や解釈者への依存。
- 閉鎖化と独善化: 単一の構造観の硬直化。
- 偏差の蓄積: 高速な環境変化による不可逆なダメージ。



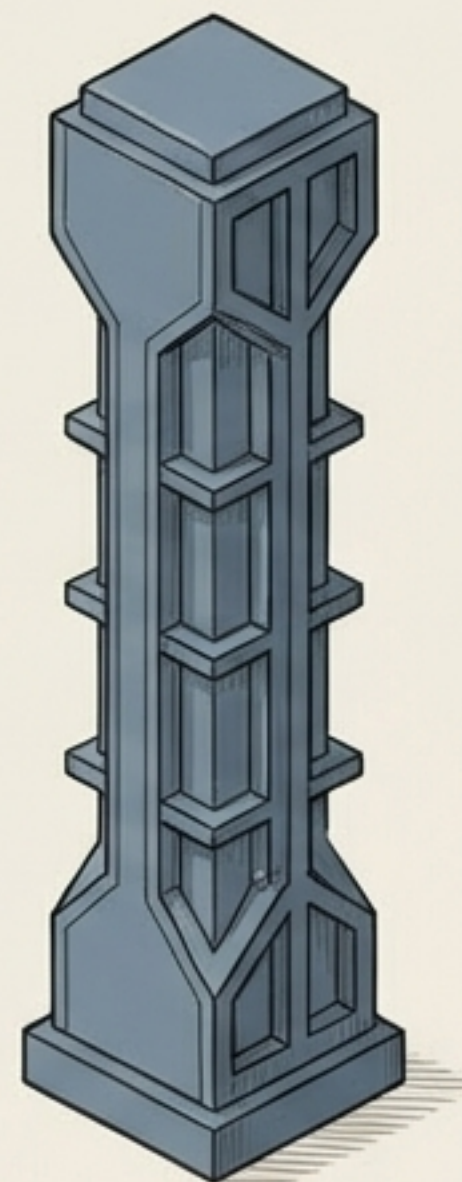
# 副作用制御を担う3つのプロトコル

Phase-βで個別整備された3つの防壁：

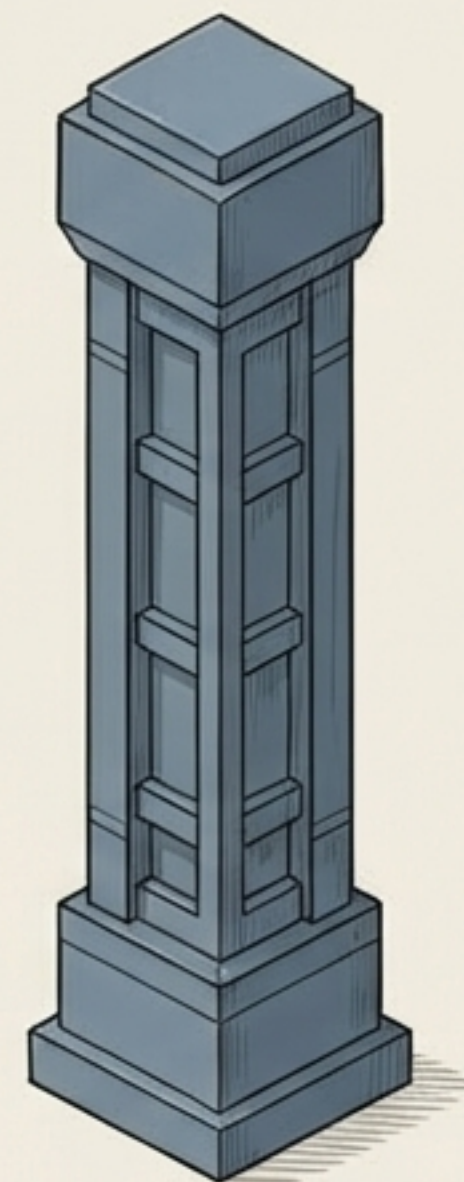
1. **反司祭階級プロトコル**: 権力構造の非集約化を保証。
2. **構造的多元性条項**: 複数視点・他理論との接続を義務化。
3. **AI・環境副作用制御**: 高速技術・環境変化による不可逆  
線線の超過を防止。



反司祭階級プロトコル



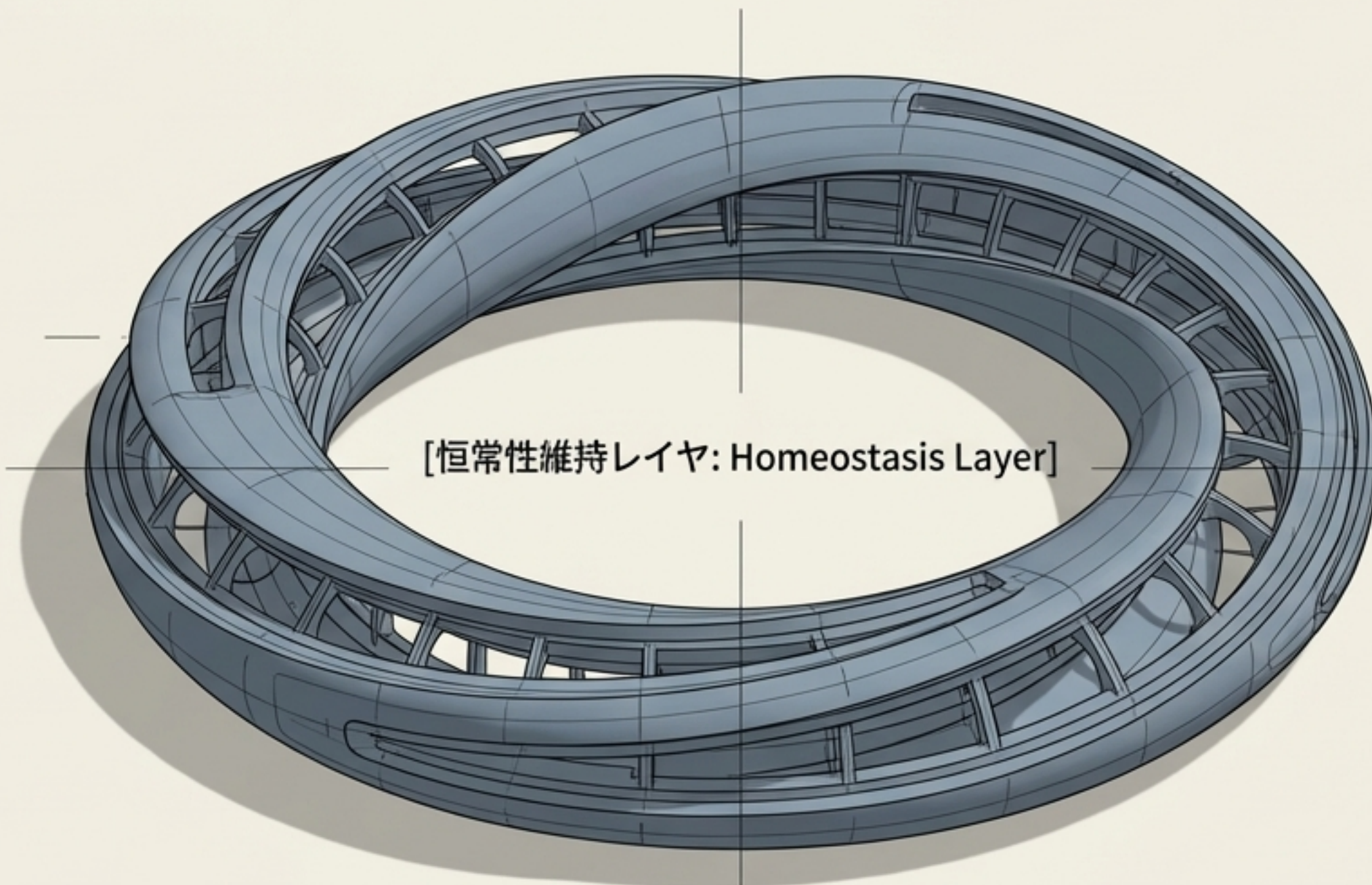
構造的多元性条項



AI・環境副作用制御

## 孤立した防御から「統合された恒常性」へ

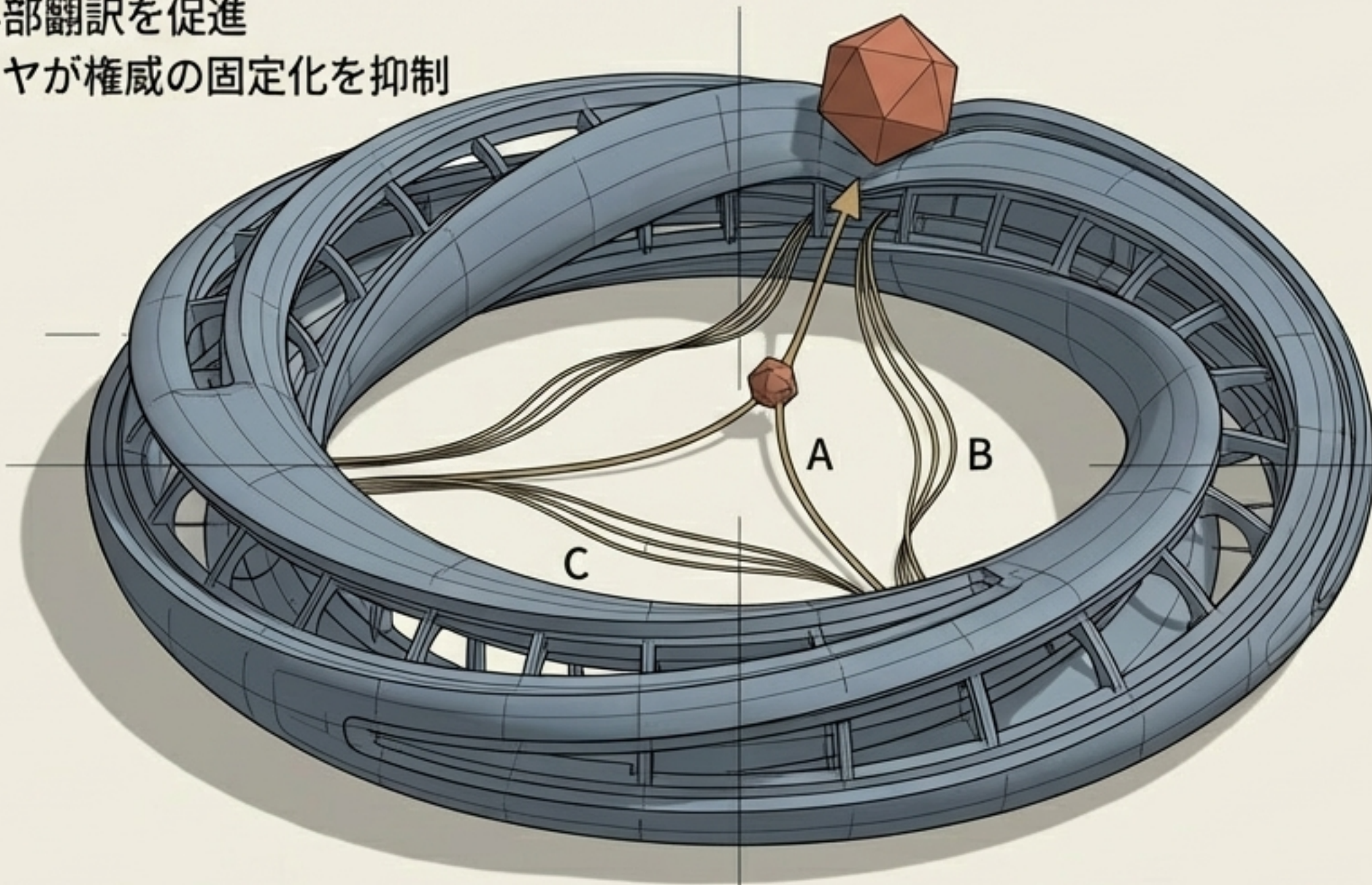
- 3つのプロトコルは、別々に存在する防御壁ではない。
- それらは有機的に連動し、一つの「恒常性維持レイヤ」へと進化する。



# 複合的な偏差の自律処理

単一の検知ではなく、一つの偏差が複数のレイヤを同時に刺激する。

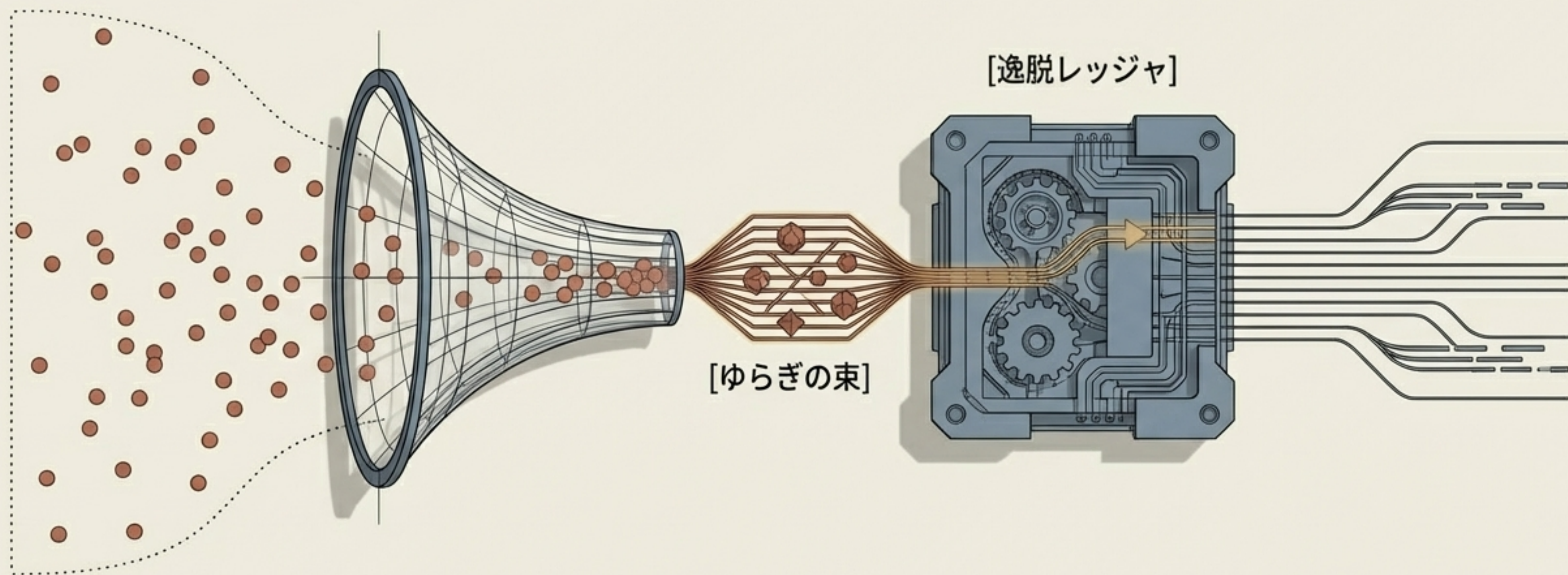
- A: 権威集中を検知
- B: 多元性条項が外部翻訳を促進
- C: 反司祭階級レイヤが権威の固定化を抑制



# 逸脱レヅジャ：ゆらぎの束としての処理

OSは偏差を個人の罰として扱わない。

- 複数のレイヤで検知された偏差は「ゆらぎの束」として統合される。
- 蓄積する前に、構造的な解消ルートを一動的に走行する。



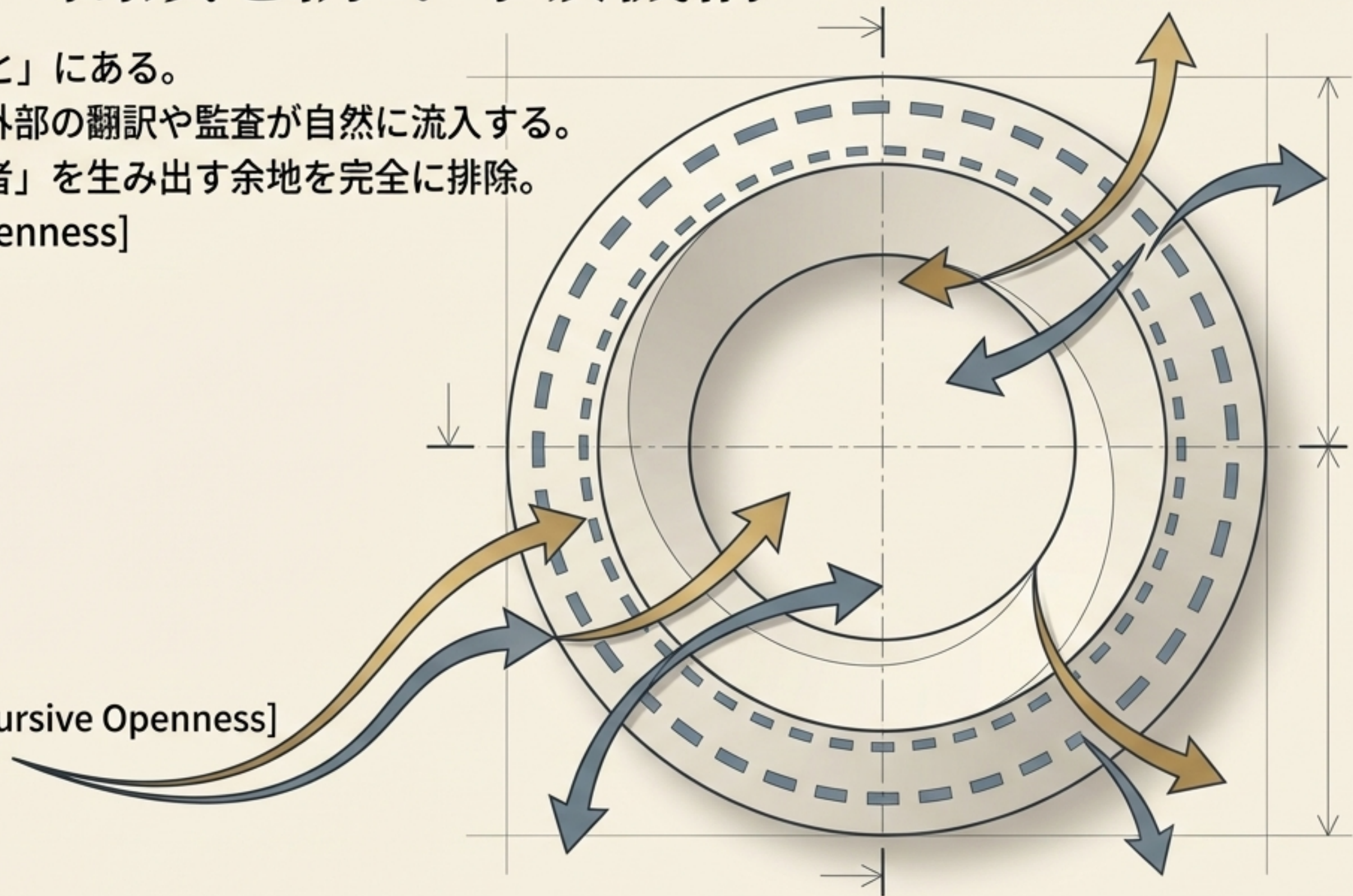
# 再帰的開放性：閉鎖を防ぐ呼吸機構

恒常性の本質は「閉じないこと」にある。

- ゆらぎを処理する過程で、外部の翻訳や監査が自然に流入する。
- 固定的権威や「解釈の絶対者」を生み出す余地を完全に排除。

[再帰的開放性: Recursive Openness]

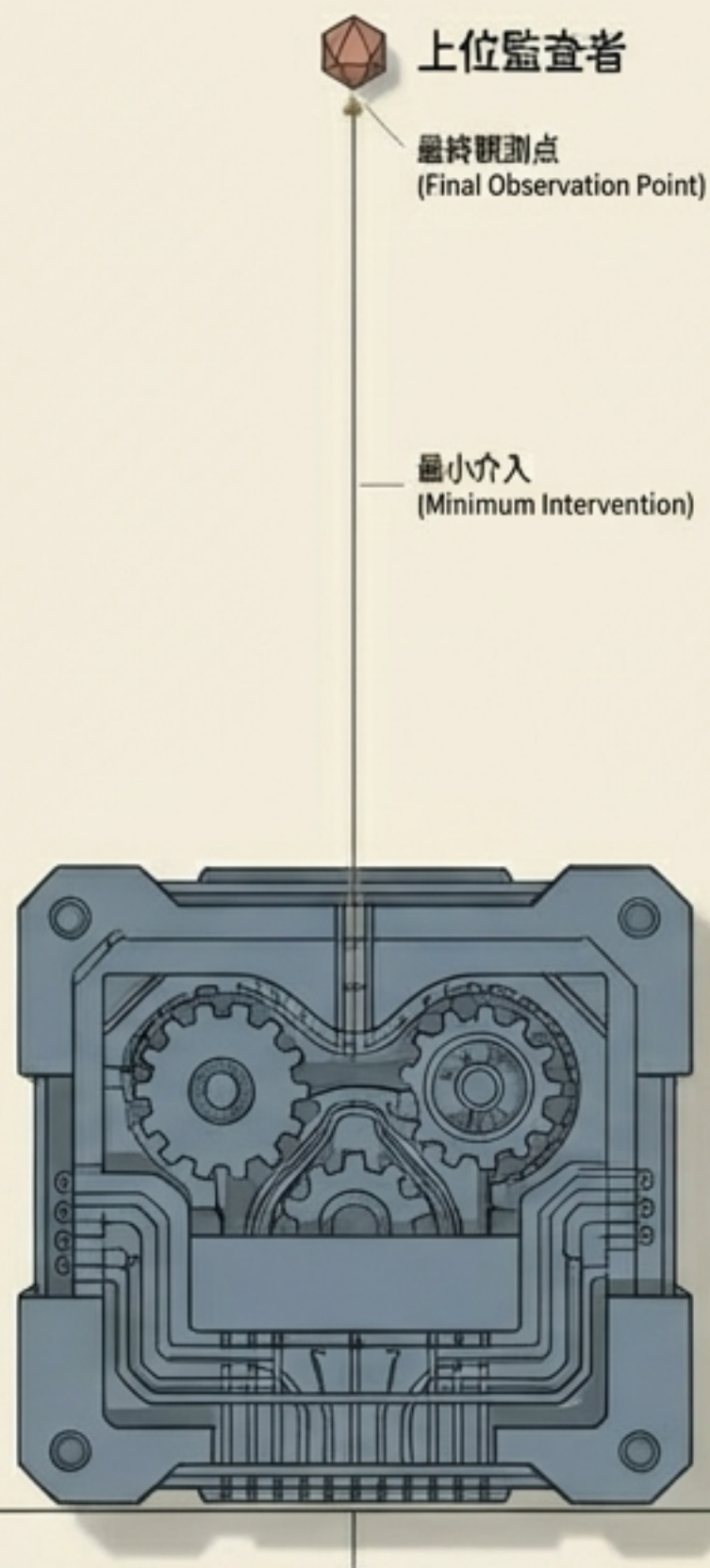
[再帰的開放性: Recursive Openness]



# 上位監査者の再定義

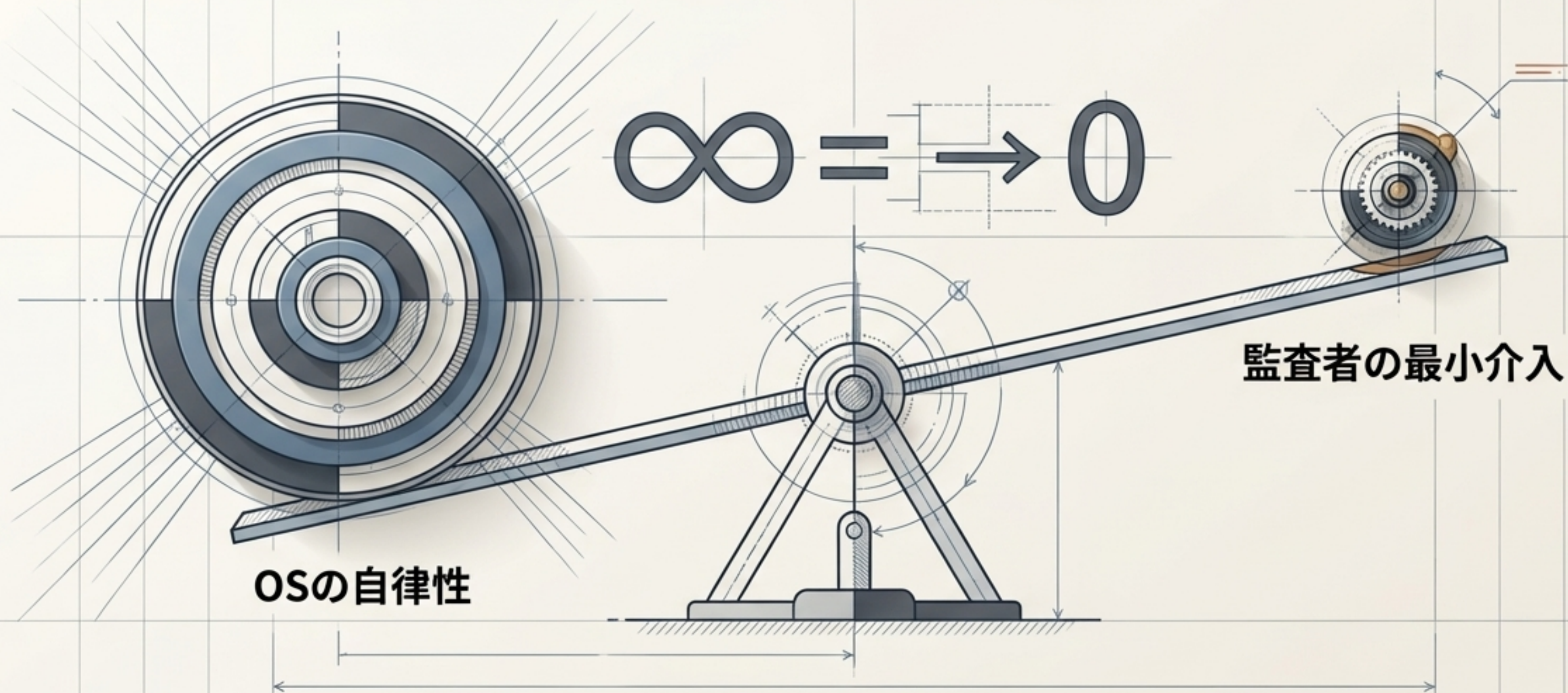
上位監査者（Upper Auditor）は、  
権力や指揮権の中心ではない。

- OSが自律的に動くための「最小介入」  
のみを担う最終観測点。



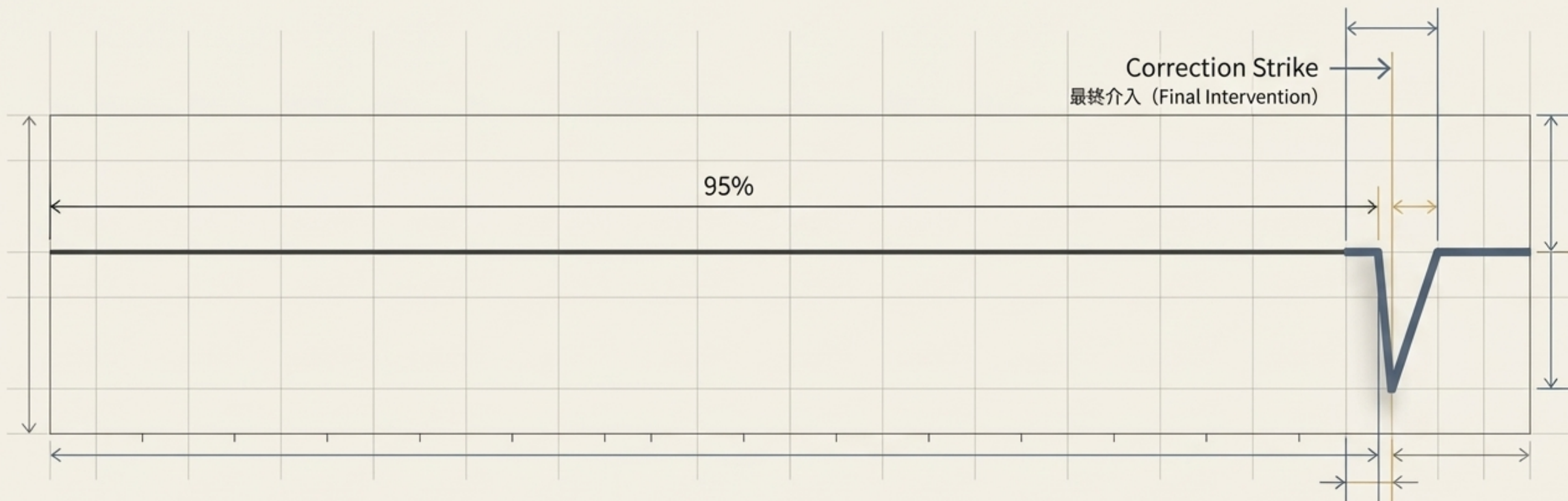
# 「介入しないこと」が価値となる構造

- 上位監査者の労働量（介入頻度）が増加する状態＝「恒常性の破綻」。
- 介入頻度が低いほど、OSの自律性は高く評価される。



# 低頻度・高価値の最終保証

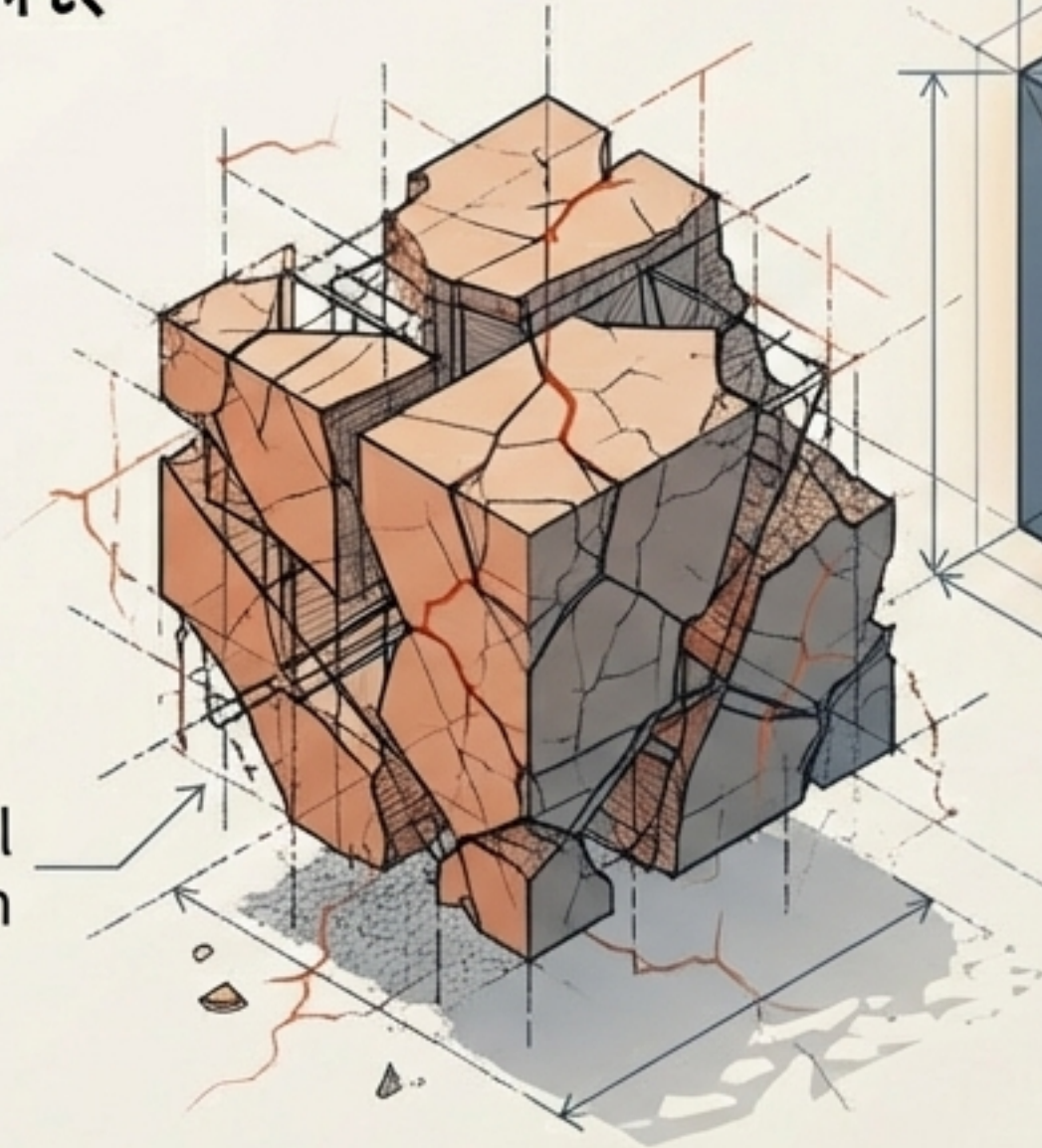
- 監査の介入は極めて限定的だが、OSの信用力と公共性に重大な影響を持つ。
- この設計により、日常的な重複作業や過剰な関与（マイクロマネジメント）が排除される。



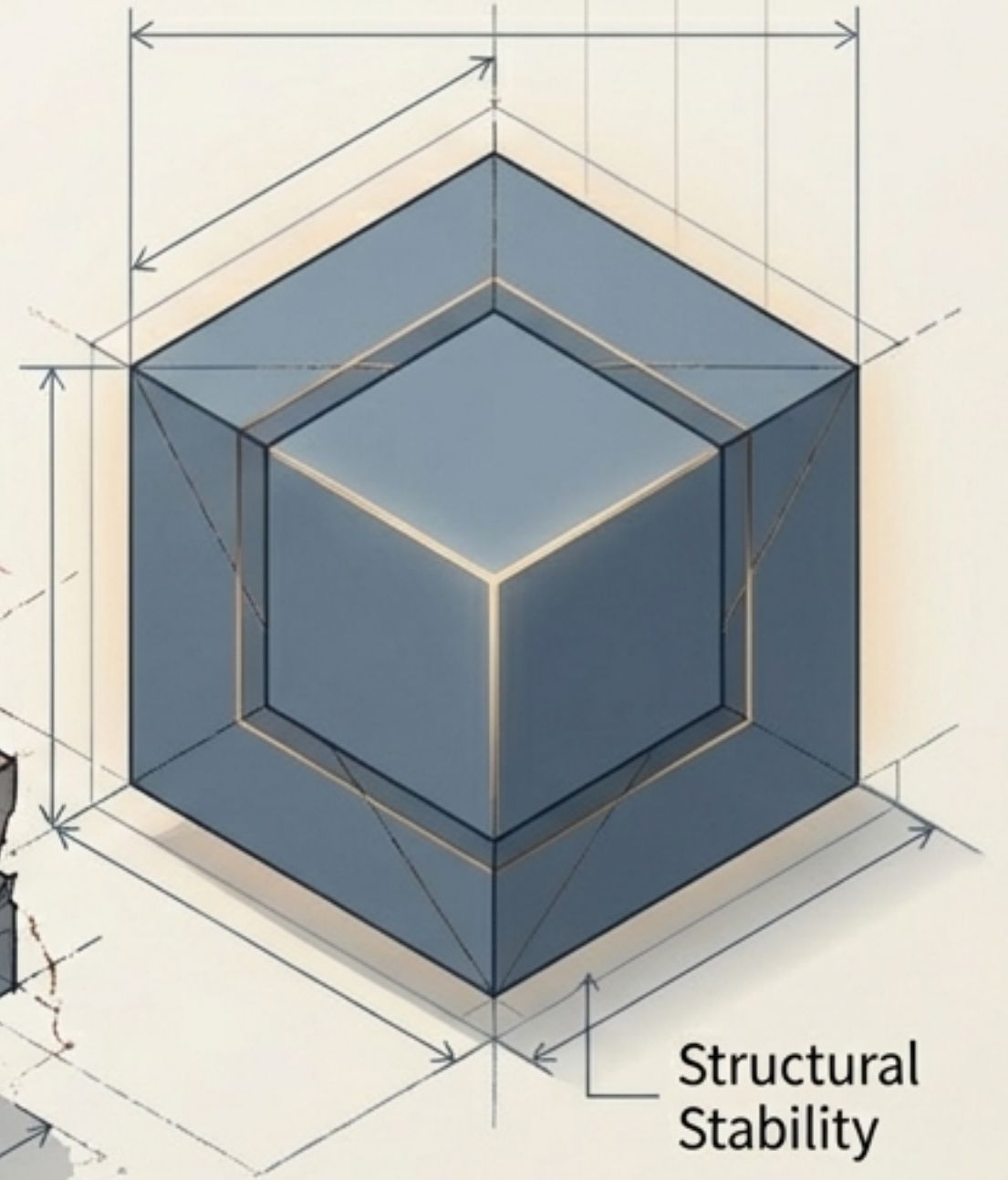
# 文明OSとしての優位性と市場合理性

- 倫理性だけでなく、圧倒的な市場合理性を持つシステム。
- 人間の「倫理的疲労」や「道徳」に依存しない。
- 偏差対応のための人的負荷が最小化され、長期的コストが極めて低い。
- 採用への構造的圧力：人的修正に頼る旧組織は、持続性においてこのOSに淘汰される。

Human Moral  
Exhaustion



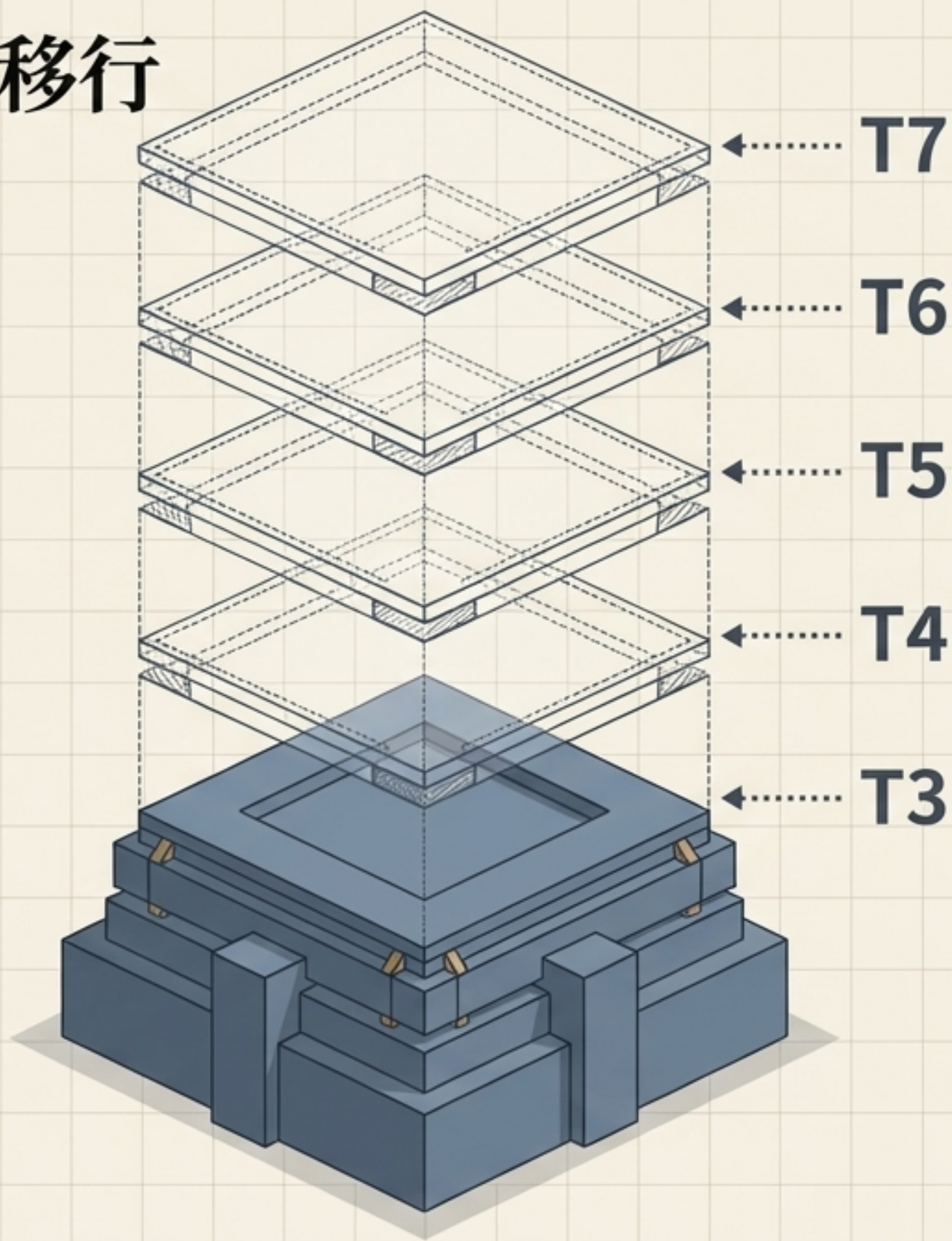
Structural  
Stability



# Phase- $\beta$ 完了から上位原理層への移行

恒常性維持モデルの構築をもって、Phase- $\beta$ は正式に完了する。

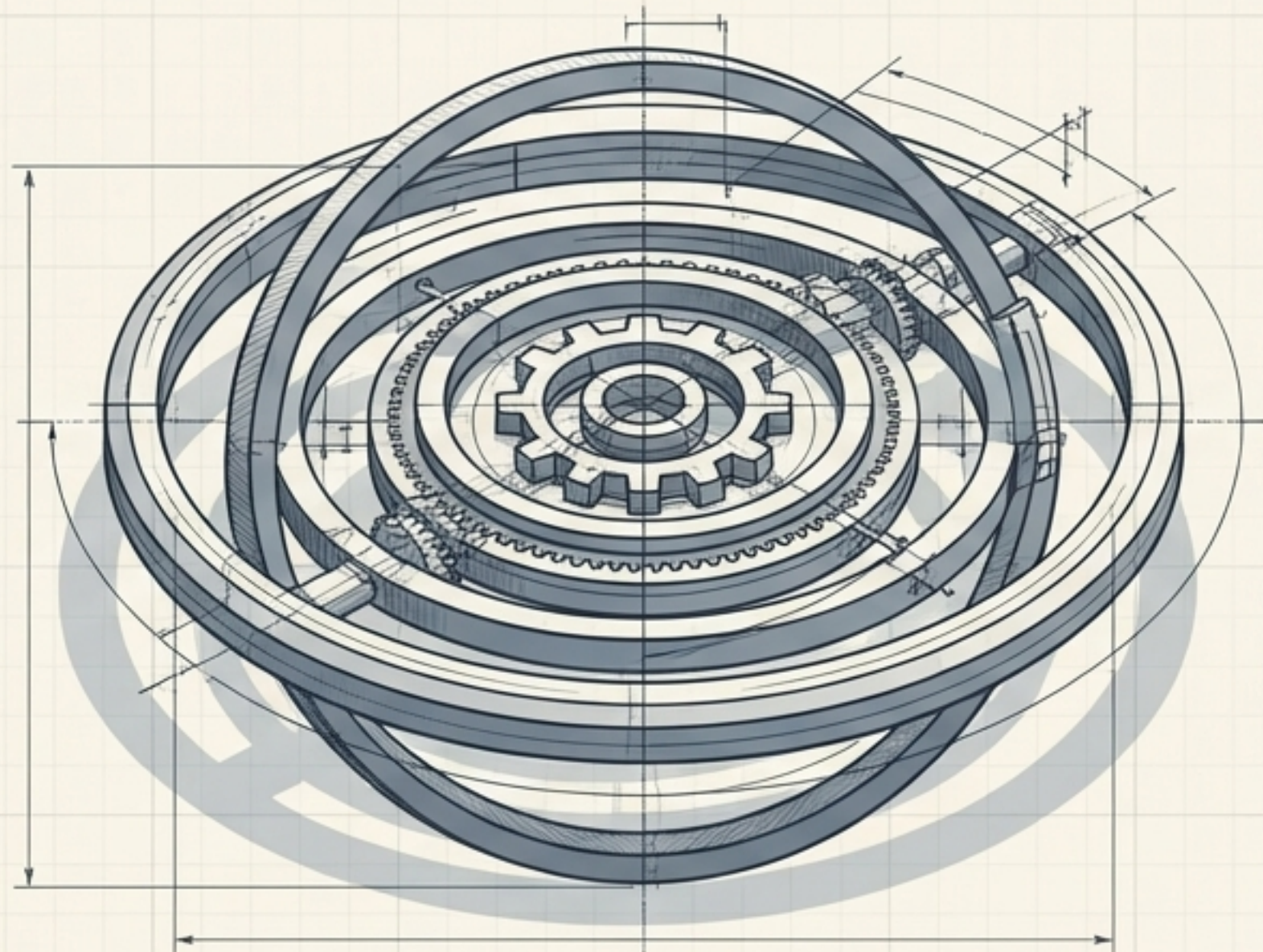
- OSは自律性を獲得し、次なる論理的な橋渡しへ向かう。
- Next: 上位原理層 (T3~T7) の展開へ。



# 非所有性と自己調整による永遠の公共性

「安定性の源泉は外部の統治ではなく、内部構造の自律運動にある」

- 誰のものでもなく、誰にも支配されない。
- ゆらぎを吸収し続けることで、永遠の公共性を維持する文明エンジン。



Nakagawa LLM Declaration  
- Signature Confirmed